

これまでは、授業以外の生活の場で身の回りの出来事や季節の変化等新鮮な驚きを詩に表現させてきた。

しかし、表現のねらいにせまる授業の中で素材を探し、即詩に表現するにはどうすればよいか。感動がなければ詩は生まれえない。共通体験から感じたことを詩に書くという活動に取り組んだことはあるが、題材が限られているため子どもの興味や関心にそったものであったと言いがたい。一人一人の感性を大切にしようとするならば、詩の題材も自由に選択させる必要がある。こうした考えのもとに研究授業を行った。

《授業にあたっての留意点》

① 一人一人の興味や関心に応じられるように、野外で自由に題材選びをさせる。

② これまでに学習した表現方法（比喩、擬態、擬音等）については無理強いを避け、詩の中に自分の「光る言葉」を入れるよう支援する。

③ 友達の作品を読み合う中で、友達の表現のよさに気づかせる。以下、学習過程の流れにそった児童の活動と教師の支援のあり方及び授業の考察については、下記のとおりである。

視点四の実践
連想を働かせたりイメージを広げ

資料3 授業3年「詩の広場」の実践と考察

学習活動・内容	児童の活動・教師の支援	考察														
<p>1. 心のアンテナについて話し合う。</p> <p>(1) 友達の詩を読んで、表現を工夫しているところを見つける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-bottom: 1px solid black;">ケイトウ</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">佐藤美香</td> </tr> <tr> <td>ばあちゃんが、</td> <td style="text-align: right;">でぼこしていたのに</td> </tr> <tr> <td>花火は</td> <td style="text-align: right;">つぼにさしたら</td> </tr> <tr> <td>ケイトウの花がざった</td> <td style="text-align: right;">壁のよ</td> </tr> <tr> <td>赤いのは、せんす</td> <td style="text-align: right;">花火があがったみたい</td> </tr> <tr> <td>黄色いのは、まり</td> <td style="text-align: right;">きれいだった</td> </tr> <tr> <td>切ないうちは</td> <td></td> </tr> </table> </div> <p>(2) 本時のめあてをとらえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>心のアンテナをはりめぐらせて、感じたとおりに詩を書こう。</p> </div>	ケイトウ	佐藤美香	ばあちゃんが、	でぼこしていたのに	花火は	つぼにさしたら	ケイトウの花がざった	壁のよ	赤いのは、せんす	花火があがったみたい	黄色いのは、まり	きれいだった	切ないうちは		<p>○ 友達の詩を読んで「光る言葉」を発表する。 「赤いのは、せんす 黄色いのは、まりのところが上手だと思う。」 「空の上に花火があがったみたいにきれいだったところもいいなあ。」</p> <p>○ 心のアンテナの手だてを発表する。 「手や足で感じたこと。」 「におったこと。」 「口で話したこと。」 「聞こえたこと。」 「はだで感じたこと。」 「心で感じたこと。」</p> <p>☞ 「心のアンテナ人形」を用意し、児童の視覚に訴えるようにした。</p> <p>○ 本時のめあてをとらえる。</p>	<p>○ 導入においては、友達の詩「ケイトウ」を読んで、心のアンテナのはりめぐらせ方、「光る言葉」について確かめ合った。</p> <p>○ 詩の題材探しという最も重要な活動を野外の自由な活動として位置づけたため、五感を使って題材を見つけることをしっかり確認したことは、その後の表現活動に影響することが大きくこの場合有効であったといえる。</p>
ケイトウ	佐藤美香															
ばあちゃんが、	でぼこしていたのに															
花火は	つぼにさしたら															
ケイトウの花がざった	壁のよ															
赤いのは、せんす	花火があがったみたい															
黄色いのは、まり	きれいだった															
切ないうちは																
<p>2. 題材探しをし、詩に書く。</p> <p>(1) 校庭で自由に詩の題材を探し、心に残ったことをメモする。</p> <p>(2) 発見カードのメモを発表する。</p> <p>(3) 感動したことを詩に書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>くも …………… 菅野寛子</p> <p>くもはわたあめみたいだ 耳をすませていると わたあめを作る きかひの音がする 「プーン。」 思わずよだれが出てくる 食べたなら すごくあまそうだ さわったら ふわふわしているだろうなあ 一度でいいから そのわたあめを食べてみたいなあ</p> </div>	<p>○ 10分間、花や木など学校の周りの物を観察する。そして、心のアンテナで感じたことを「発見カード」にメモしている。</p> <p>☞ 感性の豊かな児童には、表面的な見方だけでなく、心の目や耳を働かせるよう支援し、何をどのように見たらよいか分からないでいる児童には、興味をもった対象をよく見させた。</p> <p>○ 見つけたことを全員が発表した。</p> <p>○ 一番心に残ったことを詩に書く。</p> <p>☞ 比喩、会話、擬音など表現方法に工夫の見える児童を賞賛し、意欲を高めるようにした。</p> <p>☞ 書き出しでつまづいている児童には、発見カードをもとに体験を想起させ、そのときの様子を聞きながらノートに書かせた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><題材を選んだわけ></p> <p>○ 空を見ていたらくもがあったので、くもを見ていました。そのくもが、あまいわたあめに見えてきたので書きました。</p> <p><発見カードより></p> <p>目で …… わたあめに見える。 耳で …… わたあめを作るきかひの音が聞こえる。 心で …… よだれがでる。 ふわふわしているだろう。 おいしそう食べたらすごくあまそう。</p> <p><教師の支援></p> <p>☞ 「どんな音が聞こえますか。」 「プーン。」</p> </div>	<p>○ 題材探しでは、野外で自由に探させたため、一人一人の興味や関心の違いに対応でき、子供達は生き生きと活動できた。</p> <p>○ 発見カードへの記録は、五感を通じた観察を鋭くし、その後の発表や詩作活動に有効だった。</p> <p>○ 表現では、発見カードをもとに自分の感動をすぐ表現に結びつけることが重要である。したがって、感じたことを素直に書くということ、自分だけの「光る言葉」を使うということを確認し合うだけでなく、子ども達の思考を遮らないように留意した。実際には、5～10分の間に全員が詩を書き上げた。</p> <p>これは、これまで日常生活で物事を注意深く見させてきたこと休み時間や家庭学習で、書きたいときに自由に表現させてきた2つの積み上げによるものである。</p> <p>○ 詩（表現）は、一人一人のよさを出しきる活動であるので、本時では、個を生かす支援を大切にしたい。日常の表現活動の中から一人一人の表現パターンを把握していたので、題材探しや詩作活動では、児童の夢や願いを生かす適切な支援を行うことができた。</p>														
<p>3. 本時のまとめをする。</p> <p>(1) できあがった詩を発表する。</p> <p>(2) 次時の課題を確かめる。</p>	<p>○ できあがった詩を発表し、工夫しているところを話し合う。</p> <p>○ 次時に詩を推敲し発表会をすることを知らせる。</p>															